

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第32号
平成19年10月
生涯学習課文化財係



市制施行



平成19年10月1日に、長岡京市は市制施行35周年をむかえました。市制施行はどのようにすすめられたのでしょうか。当時の資料をひもときながら、そのあゆみをふりかえります。

展示期間：平成19年10月3日（水）～12月27日（木）
（図書館休館日は除く）

市制への動き

長岡町では、高度経済成長による人口増加や都市化の進展に伴って、市制問題が浮上してきました。市になれば市としての風格を備え、行政水準の向上、ひいては住民のサービス向上につながると考えられたのです。（『広報ながおか』81号 市制特集号）。

昭和45（1970）年に、市になる要件の一つである人口が5万人を超えるにあたり、いよいよ住民の市制に対する気運が積極的になってきたので、議会では昭和45年12月に、市制調査特別委員会（昭和44年設置）が市制対策特別委員会に改組され、市制施行にむけて本格的な協議や検討が行われました。

住民の声



市制へむけての動きが高まるなかで、向日町、大山崎町との三町合併による市制実現の意見もかなりあり、さまざまな論議が活発に交わされました。このような情勢のなか、長岡町では住民の意見を直接聞くため、昭和46（1971）年9月から10月にかけて、16会場で、市制懇談会を開催しました。

さらに、昭和46年10月、住民の最終的な意見を聞くため、全世帯を対象としたアンケート調査を実施しました（右表参照）。その結果、現時点における単独市制施行に賛成が約71%あり、市制懇談会での単独市制を望む声が、アンケート結果にもそのまま反映されました。

住民アンケート調査結果表

対象 14,823 所帯 回収 8,837 世帯 回収率 59.62%

現時点での単独市制	率 %	将来において	率 %
賛成	70.97	単独市制を続ける	29.70
反対	20.13	乙訓合併を望む	47.52
その他	8.90	わからない	22.78
計	100	計	100



市名選考委員会(昭和47年5月22日)



市制可決の瞬間(昭和47年6月29日)



市名の選考

昭和47(1972)年5月、市制施行を目標として、全戸に公募用紙を配り、住民から新市名案を募集しました。

選考は町民を代表して28名からなる市名選考委員会によって行われました。

住民からの応募は147種類が寄せられ、たとえば「乙訓市」、「西山市」、「京長岡市」、「長岡天神市」などがありましたが、全員の一致で「長岡京市」が採用されました。

「長岡」の名を残したいという願いと、由緒ある長岡京跡とのつながりが、命名の決め手となったのです。



市制施行

昭和47年6月29日、長岡町を市にすること、および市名を「長岡京市」にすることについて審議する臨時町議会が開かれ、議案は賛成多数で可決されました。

そして、9月9日の京都府議会で、市制施行案は原案どおり可決され、自治省での正式手続きを経て、10月1日に長岡町は長岡京市として正式に発足しました。

当日は、市役所開庁式が行われたあと、長岡中学校体育館で、約600名が参列して、「質素ながらも意義深い記念式典」(『市民広報長岡京』108号)が開かれました。



市役所開庁式(昭和47年10月1日)



銘板の除幕(昭和47年10月1日)